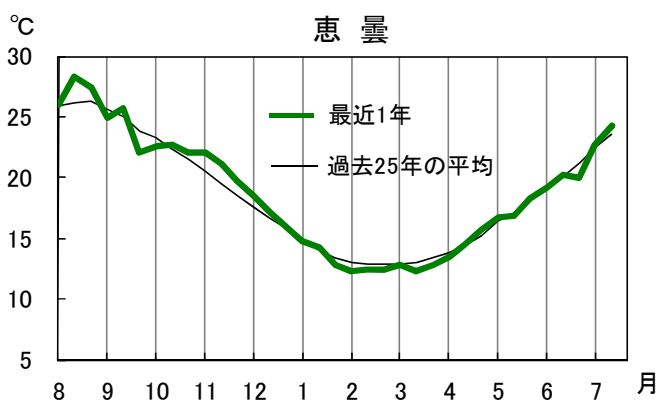
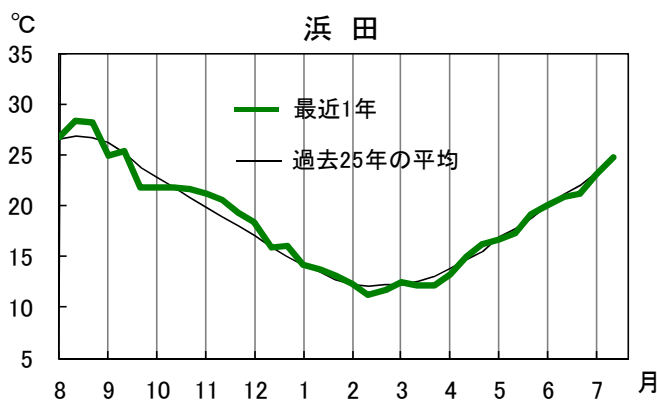




## 《6～7月の海況》

6月	月平均	平年差	評価
浜田	20.7℃	-0.3℃	やや低め
恵曇	19.8℃	-0.4℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田・恵曇地区とも、6月は上・中旬が「平年並み」でしたが下旬は「やや低め」で推移しました。7月に入り中旬時点で両地区とも「平年並み」で経過しています。



## 《6月の漁況》

## 【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）では、マアジ主体の漁況で、1ヶ統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、マイワシ主体の漁況で、1ヶ統1航海当りの漁獲量は平年をやや下回りました。この時期の主体であるマアジの漁獲量は、どの地区においても平年を下回りました。

## 【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体の93%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は39kgで平年を下回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではスルメイカ主体（全体の100%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は34kgで平年を下回りました。

## 【バイかご漁業】

6月から始まった石見地区のバイかご漁業における1隻1航海当たりの漁獲量は、678kgで前年を下回りましたが、平年並みの水揚げとなりました。主漁獲対象であるエッチュウバイの総漁獲量は24.7トンで前年並み及び平年の9割、1隻1航海当たりの漁獲量は562kgで平年並みとなりました。また、銘柄「大」を主体に「特大」、「中」といった大型サイズの漁獲が多くなっています。

## 【シイラまき網漁業】

6月から始まった石見地区のシイラまき網漁業はシイラ主体の漁況で、1隻1航海当たりの総漁獲量は13トンと平年の1.6倍になりました。主体となるシイラの漁獲量は平年の1.4倍となり、例年シイラと共に漁獲されるヒラマサは2倍の水揚げがありました。

## 【定置網漁業】

石見地区ではホソトビウオ、マアジ主体の漁況で、1統当りの漁獲量はホソトビウオが平年の2倍であったものの、アジが4割にとどまり、全統の総漁獲量は平年を下回りました。出雲地区ではマアジ、ホソトビウオ主体の漁況で、1統当りの漁獲量はホソトビウオが平年の2倍であったものの、アジが7割にとどまり、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。隠岐地区ではブリ、マアジ主体の漁況で、1統当りの漁獲量はブリが平年の6割、マアジが4割に留まり、全統の総漁獲量は平年を下回りました。

## 【釣・縄】

石見地区ではケンサキイカ、アマダイ、ブリが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は14kgで平年を下回りました。出雲地区ではブリ、マアジ、アマダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は18kgで平年並みでした。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、キダイ、マダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの総漁獲量は15kgで平年を下回りました。

【平成 24 年 6 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	マアジ	177トン	43%	35%	11.7トン	64%	58%	▲
	西郷	マアジ、マイワシ	1,610トン	35%	58%	28.2トン	38%	64%	▲
	浦郷	マイワシ、マアジ	1,268トン	29%	65%	18.1トン	34%	74%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ	4トン	20%	20%	39 kg	27%	43%	▲
	西郷	スルメイカ	1トン	4%	6%	34 kg	31%	25%	▲
バイかご	大田管内	エッチュウバイ	30トン	91%	86%	678kg	91%	101%	▲
シイラまき	和江	シイラ	30トン	1,103%	108%	1.6トン	465%	207%	◎
定置網 (大型)	浜田	マアジ、ケンサキイカ	12トン	44%	37%	731 kg	121%	105%	○
	美保関	ホソトビウオ、マアジ	136トン	139%	91%	1.3トン	135%	89%	○
	浦郷	マアジ	35トン	50%	82%	1.2トン	46%	76%	○
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、メダイ、マアジ	8トン	71%	68%	16 kg	61%	64%	▲
	大社	ブリ	16トン	184%	136%	26 kg	124%	125%	◎
	西郷	カサゴ・メバル類、キダイ、メダイ	7トン	48%	46%	22 kg	73%	72%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした

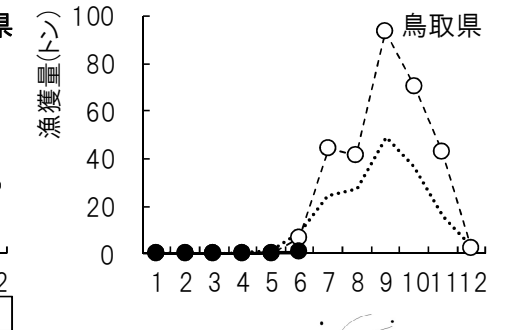
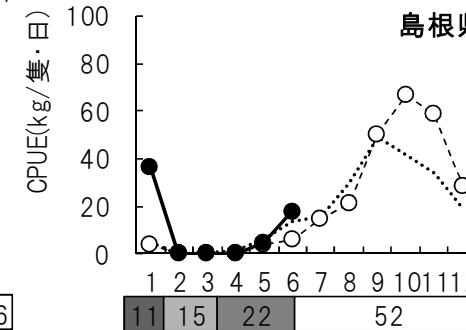
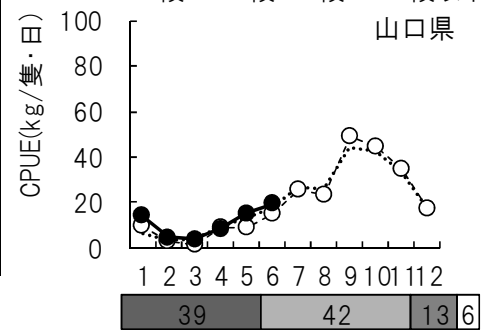
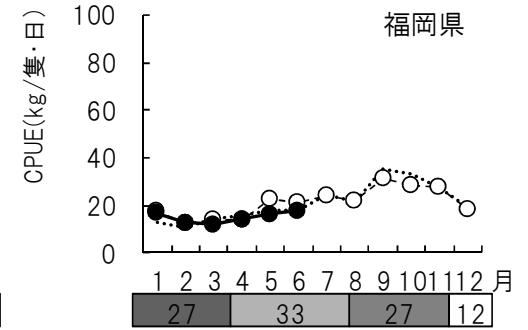
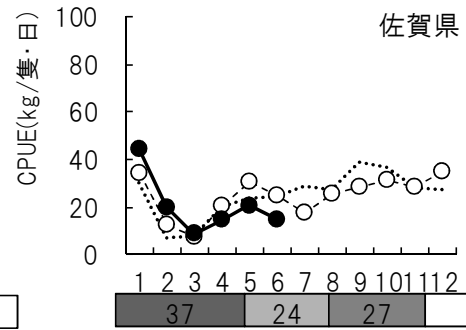
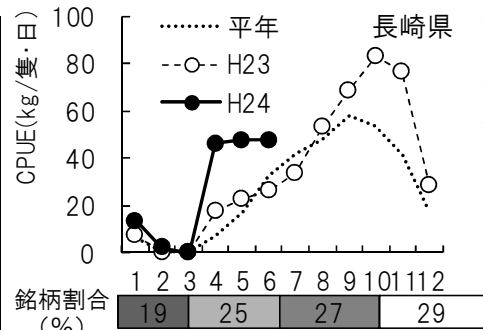
## 【ケンサキイカ情報】

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

### I:6月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

鳥取県	5月より定置網への入網が見られるようになり、釣りでも漁獲され始めました。
島根県	主要7港の水揚量は15.5トンで、前年を上回り、平年を下回りました(前年比280%、平年比62%)。
山口県	漁獲量は前年比92%、平年比60%で、前年並みで平年を下回りました。
福岡県	漁獲量は前年比49%、平年比69%と、前年・平年を下回りました。(出漁隻数 平年の7割)
佐賀県	漁獲量は、前年の44%、平年の37%と、前年・平年を下回りました。
長崎県	漁獲量は前年(87%)、平年(84%)並みでした。



※平年は過去5年(H19~H23)の平均値

### II:6月上旬の底層水温

鳥取県	水深100m前後の海域の底層水温は17℃前後です
島根県	今月は水温情報がありません。
山口県	沖合の冷水域を除くと、12~19℃台でほぼ平年並みでした。
福岡県	沿岸域は21~22℃台と平年並み、沖合域は15~18℃台とやや低め~やや高めとなっています。
佐賀県	壱岐水道では、21.0~21.6℃、対馬水道では14.6~21.0℃で、平年並みからやや低めとなりました。
長崎県	14~16℃を示し、前年に比べ低めで推移しました。

